

平成 30 年度 第 2 回遠賀川学識者懇談会 議事概要

日時：平成 31 年 1 月 10 日 14:00 ～ 16:00

場所：遠賀川水辺館 2 階めだかホール

<遠賀川水系河川整備計画の点検>

○事務局より「遠賀川水系河川整備計画の点検」（資料 2）を説明
（主な意見等）

■環境

- ・環境に関する目標については、努力目標ではなく、具体的な環境保全・改善に繋がる目標を立ててほしい。
- ・河道内の堆積土砂・樹木管理については、洪水の疎通能力を維持するためだけでなく、“生物の生息場の創出”という文言も追加すべき。
- ・今いる希少種を気にしているだけだと現状維持にしかない。遠賀川の生態系を再生していくためにも、河川改修の際には潜在魚類相等も考慮して、河川改修等を検討してほしい。
- ・これまでの環境整備によって、生物多様性がどの程度向上したのか、空間利用の観点で地域にどれだけ貢献しているのか等を評価してみてもどうか。

■防災

- ・遠賀川浸水ナビシステムは、地域住民にとって有効なシステムなので、今後も積極的に広報を行い避難につながるようにすべき。
- ・マイハザードマップについては、地域住民とともに、様々な情報をもった自治体との連携が重要。

■住民連携

- ・住民連携について、遠賀川のように地域との連携が深い一級河川水系は全国的にも少ないので、他河川の参考のためにも住民参加・合意形成のプロセスを整理してほしい。

<遠賀川水系河川整備計画の変更>

○事務局より「遠賀川水系河川整備計画の変更」（資料 3）を説明
（主な意見等）

- ・整備メニューの検討にあたっては、費用対効果（B/C）の観点をもって検討すべき
- ・整備効果の検討にあたっては、河川整備基本方針にあるように複数の降雨パターンで検証を進めていく必要がある。
- ・全川 1 / 6 0、本川中下流部 1 / 9 0 の整備計画の変更については、本省・本局との調整を行い、事業効果及び総事業費を含めた費用対効果をしっかりと検討・検証すること。それに基づき次回懇談会で議論する。あわせて本省・本局との協議状況についても報告すること。